

研究教育業績リスト

2016年12月27日現在

氏名 星野 崇宏 HOSHINO Takahiro
学位 博士(学術) 東京大学 2004年3月
博士(経済学) 名古屋大学 2010年8月

I 学歴・職歴

(1)学歴

1994年3月 早稲田高等学校卒業
1994年4月 東京大学 教養学部 理科2類 入学
1999年3月 東京大学 教育学部 教育心理学コース 卒業
2001年3月 東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 修士課程修了
2004年3月 東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 博士課程修了

(2)職歴

2001年4月 日本学術振興会特別研究員(DC1) (至2004年3月)
2004年4月 大学共同利用機関 情報・システム研究機構
統計数理研究所 助手 (至2005年3月)
2005年4月 東京大学 教養学部 教養教育開発機構
評価部門 専任講師 (至2008年3月)
2008年4月 名古屋大学 大学院経済学研究科・経済学部 准教授 (至2014年3月)
2014年4月 東京大学 大学院教育学研究科・教育学部 准教授 (至2015年3月)
2015年4月 慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科 教授(現在に至る)

(3)兼業・兼職等

2005年10月 科学技術振興機構「脳科学と社会」研究開発領域
「脳科学と社会」研究サブセンター 研究員兼任 (至2009年3月)
2006年2月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) 客員研究員 兼任
(至2006年3月)
2008年4月 情報・システム研究機構 統計数理研究所 客員准教授兼任
(至2010年3月)
2008年10月 科学技術振興機構(JST) 戦略的創造研究推進事業
さきがけ「知の創生と情報社会」領域
研究代表者・研究員兼任 (至2012年3月)
2010年8月 内閣府「平成22年度景気動向指数の改善に関する調査研究」
研究会 外部協力委員(至2011年3月)
2011年4月 シカゴ大学 客員研究員 兼任
ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院 客員研究員 兼任 (至2012年9月)

2014年4月 名古屋大学 大学院経済学研究科・経済学部 客員准教授（至2015年3月）

2014年7月内閣府「消費動向指数の改善に関する調査研究」委員（至2015年3月）

2016年9月内閣府「欠測値補完に関する調査研究」座長・委員（至2017年3月）

2016年11月大学設置・学校法人審議会大学設置分科会経済学専門委員会委員（至2017年10月）

II 教育活動

(1) 大学院担当科目

慶應義塾大学大学院経済学研究科

院演習

名古屋大学大学院経済学研究科

マーケティング A・マーケティング B・マーケティング演習

Marketing Science（英語による講義）

東京大学大学院教育学研究科

因果推論のためのリサーチデザインと統計解析

変化と発達の解析と研究デザイン

東京大学 大学院総合文化研究科

認知計量学

大阪大学 人間科学研究科

情報処理論 / 行動データ科学特講 II

(2) 学部担当科目

慶應義塾大学経済学部

計量経済学中級・ベイズ統計学・演習・研究会

名古屋大学経済学部

マーケティング・経営学・情報システム・学部ゼミナール

東京大学教育学部・文学部

心理統計学 I・II

東京大学教養学部

行動データ解析・計算機実習・社会統計分析

現代教育論・データ分析・全学自由ゼミナール・生命認知科学演習 BI・基礎演習

お茶の水女子大学 文理学部

心理統計法（基礎）

(3) 学内委員（入試・試験委員を除く）

慶應義塾大学 経済学部

研究倫理審査委員会委員

名古屋大学 大学院経済学研究科・経済学部

教務委員・将来計画検討委員・情報広報委員・大学本部 学生生活委員

大学本部 学生生活状況調査専門委員

大学本部 情報セキュリティ組織連絡協議会委員

東京大学 教養学部

教務委員・学生による授業評価 ワーキンググループ委員

III 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・統計科学／計量経済学・経営統計学
- ・行動経済学
- ・マーケティングサイエンス／マーケティングリサーチ
- ・消費者行動研究／消費者心理学
- ・計量心理学／心理統計学
- ・教育経済学

(2) 受賞等

独立行政法人日本学術振興会 日本学術振興会賞 2016 年

Psychology and Health, one of the 8 key papers published in the Journal in 2012 and 2013 2014 年
(Yusuke Takahashi, Brent W Roberts and Takahiro Hoshino)

Second place award for poster presentation at the 17th European Conference on Personality 2014 年
(Yusuke Takahashi, Takahiro Hoshino and Brent W Roberts)

慶應義塾大学文学部 印東太郎賞(単独)2012 年

日本行動計量学会 出版賞(単独) 2011 年

授与対象:「調査観察データの統計科学」(岩波書店)

日本行動計量学会 優秀賞(単独) 2008 年

日本心理学会 国際賞奨励賞(単独) 2008 年

日本教育心理学会 優秀論文賞 2009 年

(高橋雄介・岡田謙介・星野崇宏・安梅勅江)

日本視覚学会 論文賞 2007 年

(永井岳大・星野崇宏・内川恵二)

日本高次脳機能障害学会 長谷川賞 2006 年

(鈴木敦命・星野崇宏・河村満)

日本基礎心理学会 優秀発表賞 2003 年

(鈴木敦命・星野崇宏・繁柵算男)

日本行動計量学会 奨励賞(単独) 2001 年

(3)学会への貢献

- ・行動経済学会 理事(2013年12月から)・常任理事(2015年12月から)
- ・日本行動計量学会 理事(2009年4月から)
- ・一般社団法人 社会調査協会理事(2014年5月から)
- ・応用統計学会 理事(2016年4月から)
- ・日本行動計量学会 和文誌「行動計量学」編集委員長(2015年5月から)
- ・行動経済学会 監事(2011年12月から2013年12月まで)
- ・日本心理学会 研究教育委員(2010年11月から)
- ・日本教育心理学会 研究委員会委員(2012年11月から)・副委員長(2013年8月から)・委員長(2014年12月から)
- ・日本マーケティング・サイエンス学会『マーケティング・サイエンス』編集委員(2014年4月から)
- ・日本統計学会 英文誌編集委員(2010年9月から2015年8月まで)
- ・行動経済学会『行動経済学』編集委員(2009年12月から)
- ・応用統計学会『応用統計学』編集委員(2008年7月から2014年6月まで)
- ・日本行動計量学会 英文誌 Behaviormetrika 編集委員(2009年4月から2015年3月まで)
副編集委員長(2012年4月から2015年3月まで)
- ・Annals of the Institute of Statistical Mathematics Associate Editor(2012年7月から2015年6月まで)
- ・日本教育心理学会『教育心理学研究』常任編集委員(2010年1月から2012年12月まで)
- ・日本行動計量学会 運営委員会 副委員長(2009年4月から2012年3月まで)
- ・日本行動計量学会 広報委員(2009年4月から)
- ・統計関連学会連合大会 プログラム委員(2010-11年度)
- ・International Society for Bayesian Analysis(ISBA) world meeting 2012 組織委員
- ・日本教育心理学会『教育心理学研究』編集委員(2007年1月から2009年12月まで)
- ・日本テスト学会編集出版委員(2008年12月から2012年12月まで)
- ・統計関連学会連合大会 運営委員(2008-09年度)
- ・日本マーケティング・サイエンス学会第91回研究大会 実行委員長
- ・International Meeting of Psychometric Society 2007 実行委員(兼プログラム副委員長)
- ・行動経済学会第3回大会 プログラム委員 兼 運営委員
- ・行動経済学会第6回大会 プログラム委員

(4) レフェリーを経験した雑誌

American Statistician, Annals of Institute of Statistical Mathematics,
Behaviormetrika, Behavior Research Methods,
Computational Statistics & Data Analysis, Computational Statistics,
IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems, Japanese Psychological Research,
Journal of Multivariate Analysis,

Journal of the American Statistical Association (JASA),
Journal of the Japan Statistical Society, Journal of Statistical Computation and Simulation,
Psychometrika Journal of Information and Systems in Education,
Quality Nursing, Advances in Data Analysis and Classification,
日本統計学会誌 行動計量学 統計数理 オペレーションズ・リサーチ
マーケティング・サイエンス 消費者行動研究 応用統計学
心理学研究 教育心理学研究 認知心理学研究
行動経済学 電子情報通信学会和文誌 日本テスト学会誌
日本教育工学会論文誌 教育システム情報学会誌 社会と調査 品質

IV 研究業績一覧

【研究業績】

1. 著書 2.査読付き学術論文 3.査読無し論文 4.一般雑誌論文 5.分担執筆
6. 翻訳 7.学位論文 8.講演 9.学会発表

【外部資金の獲得状況】

- 1.科学研究費及び競争的研究助成金 2.企業からの奨学寄付金

1. 著書

1. 星野崇宏 (2009)「調査観察データの統計科学：因果推論・選択バイアス・データ融合」
岩波書店
第10刷
2. 倉田博史・星野崇宏 (2009)「入門統計解析」 新世社(サイエンス社)
第11刷
3. 高井啓二・星野崇宏・野間久史 (2016)「欠測データの統計科学」岩波書店
第2刷

2. 査読付き学術論文 (72)

- 72.新美潤一郎・星野崇宏(印刷中,2017) ”顧客行動の多様性変数を利用した購買行動の予測”
人工知能学会論文誌, 32,
71. Takahiro Tabuchi, Hiroshi Murayama, Takahiro Hoshino, and Tomio Nakayama (in press)
“An Out-of-Pocket Cost Removal Intervention on Fecal Occult Blood Test Attendance”
American Journal of Preventive Medicine
70. Kensuke Okada and Takahiro Hoshino (in press)
“Researchers’ Choice of Number and Range of Levels in Experiments Affects the Resultant Variance-Accounted-For Effect Size”
Psychonomic Bulletin & Review
69. 竹内真登・星野崇宏(印刷中,2017)
“プロセスシミュレーションを伴うコンジョイント測定による購買予測;写真提示を用いた操作と追跡調査による予測精度向上の確認”
行動計量学, 44(1)
68. 高橋哲・只野智弘・星野崇宏 (2016)

“効果的な効果検証？：非無作為化デザインによる刑事政策の因果効果の推定”

更生保護学研究, **9**, 52-74.

67. 猪狩良介・星野崇宏 (2016)

“Online-Offline チャンネルにおける消費者の購買間隔と購買金額の同時モデリング”

オペレーションズ・リサーチ, **61**, 589-599.

66. 宮崎慧・星野崇宏 (2016)

“商品カテゴリー購買と複数ブランド購買の段階型同時分析モデル”

行動計量学, **43**, 167-180.

65. Takashi Kusumi, Hiroshi Yama, Kensuke Okada, Satoru Kikuchi, and Takahiro Hoshino (2016).

“A national survey of psychology education programs and their content in Japan”

Japanese Psychological Research, **58(S1)**, 4-18. DOI: 10.1111/jpr.12111

64. Takahiro Tabuchi, Kosuke Kiyohara, Takahiro Hoshino, Kanae Bekki, Yohei Inaba and Naoki Kunugita (2016).

“Awareness and use of electronic cigarettes and heat-not-burn tobacco products in Japan”

Addiction, **111(4)**, 706-713.

DOI: 10.1111/add.13231

63. Masakazu Hasegawa, Yasunori Hotta, Takahiro Hoshino, Koji Ito, Shinichi Komatsu, and Takashi Saito (in press)

“Long-term Radiographic Evaluation of Risk Factors Related to Implant Treatment: Suggestion for Alternative Statistical Analysis of Marginal Bone Loss”

Clinical Oral Implants Research

DOI: 10.1111/clr.12734

62. 新美潤一郎・星野崇宏 (2015)

“ユーザ別アクセス・パターン情報の多様性を用いた顧客行動の予測とモデリング”

応用統計学, **44(3)**, 121-143.

61. Yusuke Takahashi, Kensuke Okada, Takahiro Hoshino, and Tokie Anme

(2015) “Developmental Trajectories of Social Skills during Early Childhood and Links to Parenting Practices in a Japanese Sample”. *Plos One*, **10(8)**: e0135357.

DOI:10.1371/journal.pone.0135357

60. 加藤諒・星野崇宏・堀江尚之(2015) ”反復横断データから消費者セグメントの構成比の変化・生成・消滅を理解するための潜在クラスモデルと段階推定法”
マーケティング・サイエンス, **23**, 35-59.
59. Takahiro Tabuchi, Takahiro Hoshino and Tomio Nakayama (2016)
“Are partial workplace smoking bans as effective as complete smoking bans? A national population-based study of smoke-free policy among Japanese employees”
Nicotine & Tobacco Research, **18(5)** 1265-1273.
DOI: 10.1093/ntr/ntv115
58. 竹内真登・星野崇宏 (2015) “解釈レベルの操作を伴うコンジョイント測定法の開発：マーケティングリサーチに生じるバイアスの排除に関する実証分析”
マーケティング・サイエンス, **23**, 15-34.
57. 猪狩良介・星野崇宏 (2014)
“階層ベイズ動的サンプル・セレクションモデルによる Web サイトへの誘導とサイト閲覧行動の同時分析”
日本統計学会誌, **43**, 185-214.
56. Takahiro Tabuchi, Takahiro Hoshino, Hitomi Hama, Kayo Nakata (Yamada), Yuri Ito, Akiko Ioka, Akiko Ikeda, Tomio Nakayama, Isao Miyashiro, and Hideaki Tsukuma (2014)
“Complete Workplace Indoor Smoking Ban and Smoking Behavior among Male Workers and Female Non-smoking Workers' husbands: A Pseudo-cohort Study of Japanese Public Workers” *BioMed Research International* Volume 2014 (2014), Article ID 303917, 9 pages
<http://dx.doi.org/10.1155/2014/303917>
55. Takahiro Hoshino. (2013).
“Semiparametric Bayesian Estimation for Marginal Parametric Potential Outcome Modeling: Application to Causal Inference”
Journal of the American Statistical Association, **108**, 1189-1204.
DOI:10.1080/01621459.2013.835656
54. 星野崇宏 (2013)
“継続時間と離散選択の同時分析のための変量効果モデルとその選択バイアス補正: Web ログデータからの潜在顧客への広告販促戦略立案”
日本統計学会誌, **43**, 41-58.
53. Takahiro Tabuchi, Takahiro Hoshino , Tomio Nakayama, Yuri Ito, Akiko Ioka, Isao Miyashiro,

and Hideaki Tsukuma (2013).

“Does removal of out-of-pocket costs for cervical and breast cancer screening work? A quasi-experimental study to evaluate the impact on attendance, attendance inequality and average cost per uptake of a Japanese government intervention”

International Journal of Cancer, **133**, 972-983.

DOI: 10.1002/ijc.28095

52. Tokie Anme, Ryoji, Yuka Sugisawa, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, and Takahiro Hoshino. (2013).

“Validity and Reliability of the Social Skill Scale (SSS) as an Index of Social Competence for Preschool Children ”

Journal of Health Sciences, **3**, 5-11.

51. 宮崎慧・星野崇宏 (2013)

“複数商品購買行動理解のための階層ベイズグレンジャー因果性分析”

マーケティング・サイエンス, **21**, 11-35.

50. Takahiro Hoshino. and Peter M Bentler (2013).

“Bias in Factor Score Regression and a Simple Solution”.

In Analysis of Mixed Data : Methods & Applications (A.R. de Leon & K. C. C. Carriere, eds).

NY: CRC Press, 43-61.

49. Yusuke Takahashi, Brent W. Roberts, and Takahiro Hoshino. (2012).

“Conscientiousness mediates the relation between perceived parental socialization and self-rated health”

Psychology and Health, **27**, 1048-1061.

48. 猪狩良介・星野崇宏 (2012)

“非集計 Web アクセスデータを用いたサイト普及モデル：多時点・複数サイトの階層ベイズモデリング”

マーケティング・サイエンス, 第 **20** 巻 1 号, 43-67.

47. Takehiro Nagai, Takahiro Hoshino and Keiji Uchikawa (2011).

"Statistical Significance Testing with Mahalanobis Distance for Thresholds Estimated from Constant Stimuli Method".

Seeing and Perceiving, **24**, 91-124 .

46. Shiro Ojima, Hiroko Matsuba-Kurita, Naoko Nakamura, Takahiro Hoshino and Hiroko

Hagiwara (2011).

"Age and amount of exposure to a foreign language during childhood: Behavioral and ERP data on the semantic comprehension of spoken English by Japanese children".

Neuroscience Research, **70**, 197-205.

45. Tetsuro Kobayashi and Takahiro Hoshino (2011).

"Propensity Score Adjustment for Internet Panel Surveys of Voting Behavior: A Case in Japan".

Japanese Journal of Electoral Studies. **27(2)** 104-117.

44. 高橋雄介・山形伸二・星野崇宏 (2011)

“パーソナリティ特性研究の新展開と疫学・経済学など他領域への貢献の可能性”

心理学研究, 第82巻1号 63-76.

43. Shiro Ojima, Naoko Nakamura, Hiroko Matsuba-Kurita, Takahiro Hoshino and Hiroko Hagiwara (2011)

"Neural Correlates of Foreign-Language Learning in Childhood: A 3-year Longitudinal ERP Study"

Journal of Cognitive Neuroscience. **23**, 183-199.

42. Kei Miyazaki, Takahiro Hoshino, and Kazuo Shigemasu. (2010). "Determining the direction of the path using a Bayesian semiparametric model". *Proceedings of 19th International Conference on Computational Statistics*. 1429-1436.

41. 星野崇宏 (2010)

“調査不能がある場合の標本調査におけるセミパラメトリック推定と感度分析：日本人の国民性調査データへの適用” *統計数理*, 第58巻1号 3-23.

40. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino and Kazuo Shigemasu (2010)

"Happiness is unique: A latent structure of emotion recognition traits revealed by statistical model comparison"

Personality and Individual Differences, **48** 196-201.

doi: 10.1016/j.paid.2009.10.00

39. Kei Miyazaki and Takahiro Hoshino. (2009)

"A Bayesian Semiparametric Item Response Model with Dirichlet Process Priors"

Psychometrika, **74** 375-393. doi: 10.1007/s11336-008-9108-6

38. Kei Miyazaki, Takahiro Hoshino, Shin-ichi Mayekawa and Kazuo Shigemasu. (2009)
"A New Concurrent Calibration Method for Nonequivalent Group Design under Nonrandom Assignment"
Psychometrika, **74** 1-19. doi: 10.1007/s11336-008-9076-x
37. 篠原亮次・星野崇宏・杉澤悠圭・童連・田中笑子・渡辺多恵子・恩田陽子・安梅勅江 (2009)
“就学前児の社会的スキルと広汎性発達障害(PDD)との関連”
厚生指標, 12月号 20-25.
36. 小島早都子・田村玄・星野崇宏・繁柁算男 (2009)
“潜在構造モデルによる複数カテゴリのセグメンテーション”
マーケティング・サイエンス, 第17巻1号 13-29.
35. Takahiro Hoshino (2008)
"Bayesian Significance Testing and Multiple Comparisons from MCMC Outputs".
Computational Statistics & Data Analysis, **52** 3543-3559.
doi: 10.1016/j.csda.2007.11.009
34. Hiroshi Kurata, Takahiro Hoshino and Yasunori Fujikoshi (2008)
"Allometric Extension Model for Conditional Distributions"
Journal of Multivariate Analysis, **99** 1985-1998.
doi: 10.1016/j.jmva.2008.02.020
33. 星野崇宏 (2008)
“ブランドイメージに関する広告政策を策定するための階層ベイズ的な選択モデルとその応用”
マーケティング・サイエンス, 第15巻1号 27-44.
32. Takahiro Hoshino and Kazuo Shigemasu (2008)
"Standard errors of estimated latent variables with estimated structural parameters"
Applied Psychological Measurement, **32** 181-189.
doi: 10.1177/0146621607301652
31. 高橋雄介・岡田謙介・星野崇宏・安梅勅江 (2008)
“就学前児の社会的スキル—コホート研究による因子構造の安定性と予測的妥当性の検討—”
教育心理学研究, 第56巻1号 81-92.

30. Takahiro Hoshino (2008)

"A Bayesian Propensity Score Adjustment for Latent Variable Modeling and MCMC algorithm"

Computational Statistics & Data Analysis, 52 1413-1429.

doi:10.1016/j.csda.2007.03.024

29. Takahiro Hoshino (2007)

"Doubly Robust type Estimation for Covariate Adjustment in Latent Variable Modeling"

Psychometrika, 72 535-549.

doi: 10.1007/S11336-007-9007-2

28. 岡田謙介・星野崇宏・繁榊算男 (2007)

“構造方程式モデリングにおける Bartlett 補正を用いた尤度比検定統計量の改善”
教育心理学研究, 第 55 卷 3 号 382-392.

27. 星野崇宏 (2007)

“インターネット調査に対する共変量調整法のマーケティングリサーチへの適用と調整効果の再現性の検討” *行動計量学*, 第 34 卷 1 号 33-48.

26. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino, Kazuo Shigemasu, and Mitsuru Kawamura. (2007)

"Decline or improvement? — age-related differences in facial expression recognition"

Biological Psychology, 74 75-84.

doi:10.1016/j.biopsycho.2006.07.003

25. Kazuo Shigemasu and Takahiro Hoshino (2007)

"Simpler Calculation of Posterior Distributions of the Parameters in Structural Equation Model"

In Bayesian Statistics and its Applications (S.K.Upadhyay, & D.K.Dey,eds), Anshan. 396-406.

24. 星野崇宏・岡田謙介 (2006)

“傾向スコアを用いた共変量調整による因果効果の推定と臨床医学・疫学・薬学・公衆衛生分野での応用について” *保健医療科学*, 第 55 卷 3 号 230-242.

23. Takahiro Hoshino, Hiroshi Kurata and Kazuo Shigemasu (2006)

"A Propensity Score Adjustment for Multiple Group Structural Equation Modeling"

Psychometrika, 71 691-712.

doi: 10.1007/s11336-005-1370-2.

22. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino, Kazuo Shigemasu and Mitsuru Kawamura (2006)

“Disgust-specific impairment of facial expression recognition in Parkinson’s disease”

Brain, 129, 707-717.

doi: 10.1093/brain/awl011

21. 永井岳大・星野崇宏・内川恵二 (2006)

“恒常法により推定された閾値間の統計的有意差検定法”

Vision, (日本視覚学会誌) 18, 113-123.

20. 星野崇宏・前田忠彦 (2006)

“傾向スコアを用いた補正法の有意抽出による標本調査への応用と共変量の選択法の提案” *統計数理*, 第 54 巻 1 号 191-206.

19. 星野崇宏 (2006)

“ソーシャルキャピタルとしての対人信頼感と法意識・規範意識の関連：東アジア価値観国際比較調査データから”

行動計量学, 第 33 巻 1 号 41-53.

18. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino and Kazuo Shigemasu (2006)

"Measuring Individual Differences in Sensitivities to Basic Emotions in Faces"

Cognition, 99, 327-353.

doi: 10.1016/j.cognition.2005.04.003

17. 鈴木敦命・星野崇宏・河村満 (2005)

”高齢者における表情認識”

高次脳機能研究, 第 25 巻 3 号 233-241.

16. 星野崇宏 (2005)

“欠測群の周辺分布の母数に対する傾向スコアを用いた重み付き M 推定量の提案と介入効果研究への応用”

行動計量学, 第 32 巻 2 号. 121-132.

15. 星野崇宏・岡田謙介・前田忠彦 (2005)

“構造方程式モデリングにおける適合度指標とモデル改善について：展望とシミュレーション研究による新たな知見”

行動計量学, 第 32 巻 2 号. 209-235.

14. Takahiro Hoshino (2005)

“A Latent Variable Model with non-ignorable missing data”

Behaviormetrika, 32, 71-93.

13. 光永悠彦・星野崇宏・繁榊算男・前川眞一 (2005)

“因子スコアや潜在変数得点を用いた構造方程式モデルの母数推定の偏りの解決”
行動計量学, 第 32 巻1号 21-33.

12. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino and Kazuo Shigemasu (2004)

"Interrelationship among the recognition of the six basic emotions in faces"
Japanese Journal of psychonomic society, **23**, 107-108.

11. 星野崇宏・繁樹算男 (2004)

“傾向スコア解析法による因果効果の推定と調査データの調整について”
行動計量学, 第 31 巻1号 43-61.

10. Kazuo Shigemasu and Takahiro Hoshino (2004)

“Bayesian Procrustes Solution”
Behaviormetrika, **31**, 1-13.

9. 星野崇宏 (2003)

“調査データに対する傾向スコアの適用”
品質, 第 33 巻 3 号. 44-51

8. 星野崇宏 (2003)

“潜在変数への観測変数の回帰に関する問題と段階推定による解決”
心理学研究, 第 74 巻 3 号 218-226.

7. Kazuo Shigemasu, Takuya Ohmori and Takahiro Hoshino (2003)

“Market Segmentation Method From the Bayesian Viewpoint”
In Between Data Science And Applied Data Analysis (M.Schader, W.Gaul, & M.Vichi, eds).
Berlin: Springer, 595-602.

6. Kazuo Shigemasu, Takuya Ohmori, and Takahiro Hoshino (2002)

“Bayesian Analysis of Structural Equation Modeling”
In Measurement and Multivariate Analysis (S.Nishisato, Y.Baba, H.Bozdogan, & K.Kanefuji, eds). Tokyo: Springer-Verlag, 207-216.

5. 佐々木淳・星野崇宏・丹野義彦 (2002)

“精神病理の症状と性格5因子モデルとの関係”
教育心理学研究, 第 50 巻 1 号 65-72.

4. 星野崇宏 (2001)

“多次元項目反応理論での相関のある特性値の線形結合に関するテスト情報関数”

教育心理学研究, 第 49 卷 4 号 491-499.

3. 星野崇宏 (2001)

“尺度の個人内分散を用いた回帰モデルの提案”

教育心理学研究, 第 49 卷 4 号 401-408.

2. 星野崇宏・橋本貴充・繁柘算男 (2001)

“ベイズ的アプローチによる因子平均の群間差・線形対比の有意性検定”

教育心理学研究, 第 49 卷第 1 号 31-40.

1. Takahiro Hoshino (2001)

“Bayesian Inference for Finite Mixtures in Confirmatory Factor Analysis” *Behaviormetrika*, **28**, 37-64.

3. 査読無し論文 (12)

12. 猪狩良介・星野崇宏(2016)「統計的データ融合を用いた広告・価格販促の効果の推定」日経広告研究所報 50(5), 2-9.

11. Takahiro Hoshino (2011). “Effect of Noncognitive Skills and Related Personality Traits to Productivity in Labor Market: A Review”.

The Annual Report of Educational Psychology in Japan, **50**, 164-175.

10. 星野崇宏 (2010) . “Web 調査の偏りの補正: 行動経済学における調査研究への

適用”. 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構 ワーキングペーパー第 97 号 p.1-18.

9. 星野崇宏・荒井一博・平野茂実・柳澤秀吉 (2008)

“組織風土と不祥事に関する実証分析” **一橋経済学**, 第 2 卷 2 号 53-73.

8. 星野崇宏 (2008) . “ネット上の意見表明のバイアスとその補正について”.

人工知能学会誌. 第 23 卷 6 号 791-797.

7. 星野崇宏 (2007) . “学習科学研究の妥当性向上へ向けた統計解析法と複数データの統合手法について: 傾向スコアによる共変量調整とデータフュージョン”.

教育システム情報学会誌. 第 24 卷 3 号 216-224.

6. Makoto Mizuno and Takahiro Hoshino (2006) “Assessing the Short-term Causal Effect of

TV Advertising via the Propensity Score Method”

Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series, University of Tsukuba.

5. 星野崇宏 (2006) 『共変量情報を用いた偏りのある標本抽出調査の補正の可能性の検討』. 吉田秀雄記念事業財団 平成 17 年度研究助成報告書.
4. 吉野諒三・星野崇宏 (2005) 『東アジア価値観国際比較調査 — 「信頼感」の統計科学的解析 — (2004 年シンガポール調査報告書)』. 統計数理研究所.
3. 吉野諒三・星野崇宏 (2005) 『東アジア価値観国際比較調査 — 「信頼感」の統計科学的解析 — (2003 年韓国調査報告書)』. 統計数理研究所
2. 星野崇宏 (2004). "構造方程式モデリング・共分散構造分析：モデルの検証について" 知識社会のための情報・統計科学 日本行動計量学会第 7 回セミナー論文集 長岡技術科学大学 98-117.
1. Kazuo Shigemasu, Takuya Ohmori and Takahiro Hoshino(2000)
“Bayesian Inference for Structural Equation Modeling”
Cognitive and Behavioral Science Research Report, University of Tokyo.

4. 一般雑誌論文・新聞記事 (3)

3. 星野崇宏(2014)
“企業のビッグデータ分析：行動経済学の知見活用を” 日本経済新聞 経済教室欄
2014 年 4 月 11 日
2. 星野崇宏・楠木良一(2007)
“ネット調査を補正する「傾向スコア」の可能性”. OJO(読売ADレポート)
第 10 巻 6 号, 読売新聞社 10-13. (インタビュー記事)
1. 鈴木督久・星野崇宏 (2004). ”傾向スコアを巡る対話”. マーケティング・リサーチャー. Vol.24,
No.97. 日本マーケティング・リサーチ協会 32-38.

5. 分担執筆(13)

13. 「岩波データサイエンス 3」(2016)
星野崇宏「統計的因果効果の基礎：特に傾向スコアと操作変数法を用いて」『岩波データサイエン

ス』3, 62-90.

加藤諒・星野崇宏「因果効果推定の応用：CM 接触の因果効果と調整効果」『岩波データサイエンス』3, 91-100.

12. 「心理学辞典」(平凡社)(2013)

分担執筆(10 ページ分：実験法・因果分析・コホート研究・メタ分析・実験計画・多重比較)

11. 「社会調査辞典」(丸善)(2014)

分担執筆(16 ページ分：クラスター分析・因子分析・共分散構造分析・パス解析・判別分析・主成分分析・多重代入・項目反応理論)

10. 「心理学辞典」(誠信書房)(2013 年中の予定)

分担執筆(3 ページ分：先端的統計手法)

9. 星野崇宏 (2012)

“生産性マネジメントと経済性管理：マーケティング”「東アジアのモノづくりマネジメント」(高桑宗右エ門 編)第 5 章 134-150 中央経済社

8. 「統計応用の百科事典」(丸善)美添・松原・林・竹村(編)(2011)

分担執筆(6 ページ分：欠測データの扱い・得点等化法・コンジョイント分析)

7. 「感情と思考の科学事典」(朝倉書店)海保・北村・竹村(編)(2010)

分担執筆(6 ページ分：統計的意思決定理論・ベイズの定理・ベイジアンネットワーク)

6. Kazuo Shigemasu, Akinori Okada, Tadashi Imaizumi and Takahiro Hoshino.

New Trends in Psychometrics (2009) Universal Academic Press.

編著者.

5. 星野崇宏 (2008)「東アジアの国民性比較」(勉誠出版)吉野諒三(編)

分担執筆 第 11 章 法意識・規範意識・契約観と対人信頼感の関連 181-197.

4. 星野崇宏 (2008)「心理統計学」(培風館)繁榊算男・大森拓哉・橋本貴充

分担執筆 第 8 章 多重比較

3. 星野崇宏・森本栄一 “インターネット調査の偏りを補正する方法について：傾向スコアを用いた共変量調整法”(2007)「Web マーケティングの科学—リサーチとネットワーク—」(井上哲浩・日本マーケティングサイエンス学会 編)第 1 章 27-59 千倉書房

2. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino, Kazuo Shigemasu, and Mitsuru Kawamura. Aging

Effects on Facial Expression Recognition: Testing for their Negative-Emotion Selectivity. (2007). *Psychology of Anger*, Nova Science Publishers, Hauppauge NY. (Elana I. Clausen, eds). Chapter 6. p.177-201.

1. 色彩用語辞典（東京大学出版会）長谷川・後藤（編）（2003） 分担執筆

6. 翻訳(1)

1. 星野崇宏 “局外パラメータの除去”・“ベイジアンノンパラメトリック推測”（印刷中）
「ベイズ統計解析ハンドブック」（繁榊算男・大森裕浩・岸野洋久編訳）第7章・第13章 朝倉書店

7. 学位論文

1. 星野崇宏（2001）
“Confirmatory factor analysis for heterogeneous population”
（和文題目：混合母集団下の確認的因子分析）
東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 修士論文 修士（学術）
2. 星野崇宏（2004）
“Stepwise Estimation Procedure and its Application
to Propensity Score Adjustment in Structural Equation Modeling”
（和文題目：構造方程式モデリングにおける段階推定と傾向スコア調整法への応用）
東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 博士論文 博士（学術）
3. 星野崇宏（2010）
「調査観察データの統計科学：因果推論・選択バイアス・データ融合」
名古屋大学 大学院経済学研究科 博士論文 博士（経済学）

8. 講演 (25)

1. 「調査・観察・準実験データからいかに因果関係を探るか？」（2003）
第67回日本心理学会大会小講演、東京大学
2. （招待講演）「構造方程式モデリング・共分散構造分析：モデルの検証について」（2004）
2004年行動計量学会春のセミナー チュートリアル講演、長岡技術科学大学
3. （招待講演）“Estimating causal effects on latent variables using propensity scores”（2005）

International Symposium on Statistical Causal Inference and Nonnormality, Osaka, Japan.

4. 「調査・準実験からの因果推論法と縦断調査データへの適用」(2006)
科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 脳科学と社会研究領域
第2回情報統計ワークショップ、 学士会館
5. (招待講演) 「傾向スコアを用いた準実験及び観察研究からの因果分析について」(2006)
応用統計学会第28回シンポジウム チュートリアル講演、 国立保健医療科学院
6. (招待講演) “Semiparametric adjustment methods for non-random sampling
in survey research”(2006)
2006年度統計関連学会連合大会、企画セッション 招待講演、 東北大学
7. 「調査・観察研究でのロバストな因果効果推定法」(2006)
第70回日本心理学会大会、「因果をとらえる新しい統計的方法とは」
大会準備委員会企画シンポジウム 話題提供、福岡国際会議場
8. 「実験心理学分野への項目反応理論の適用と個人差の推定値の利用について」
(2006)
第70回日本心理学会大会、「表情認知と項目反応理論」ワークショップ 話題提供、
福岡国際会議場
9. (招待講演) 「ベイズ統計による分類手法に関する近年の発展—潜在クラス分析における話題と
潜在変数モデルの統一的表現—」(2007)
日本分類学会 2007年度シンポジウム 講演、多摩大学
10. 「実験ができない研究分野における因果関係同定のための研究法・解析法の発展」(2008)
第72回日本心理学会大会 国際賞奨励賞講演、北海道大学
11. (招待講演) 「観察研究・調査データからの因果効果の推定」(2009)
ICPSR 国内利用協議会統計セミナー、 関西学院大学
12. (招待講演) 「Web 調査の偏りの補正：行動経済学における調査研究への適用」(2010)
関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構 第5回 RISS 経済政策特別講義、 関西大学
13. (招待講演) 「標本調査法への統一的なアプローチと新展開」(2010) 統計数理研究所 土
屋隆裕氏との共同講演
2010年度統計関連学会連合大会、 早稲田大学

14. (招待講演) 「課題研究：教育調査の在り方を問い直すー量的研究の課題と展望ー：統計学の観点から見た量的研究の課題と今後」(2010)
日本教育社会学会 第62回大会、 関西大学
15. (招待講演) 「欠測データと因果効果の推定」(2010)
ICPSR 国内利用協議会統計セミナー、 立教大学
16. (招待講演) 「反実仮想モデルを用いた統計的因果推論について」(2010)
第13回情報論的学習理論ワークショップ(IBIS2010)、 東京大学
17. (招待講演: Invited Talk)
”Causal Inference Framework for Latent Variable Modeling”(2011)
The 76th Annual and the 17th International Meetings of the Psychometric Society,
Hong-Kong Institute of Education, Hong-Kong.
18. (招待講演) 「欠測データ解析から統計的因果推論へ：近年の動向とガイドライン」(2014)
2014年行動計量学会春のセミナー チュートリアル講演、 帝京大学
19. (招待講演) 「欠測データ解析の枠組みと近年の動向：NRCガイドラインを踏まえて」(2014)
統計数理研究所リスク解析戦略研究センター 第5回生物統計ネットワークシンポジウム
「疫学研究における生物統計学の発展と貢献」、サピアタワー
20. (招待講演) 「シェア・オブ・ウォレット：自社データだけではわからない競合他社での購買をビッグデータで予測する」(2014) 日経ビッグデータカンファレンス、 日経ホール
21. (招待講演) 「統計的因果効果の推定ー傾向スコアと操作変数法から発展的課題までー」(2015)
ICPSR 国内利用協議会統計セミナー、 京都大学
22. (招待講演) 「統計的因果効果の推定について」
日本社会心理学会第3回春の方法論セミナー、 上智大学
23. (特別講演) 「欠測データ解析：特に近年の多重代入法の進展を中心に」(2016)
応用統計学会 2016年年会、 統計数理研究所
24. (招待講演) 「欠測データ解析：多重代入法と感度分析の最近の発展について」(2016)
統計数理研究所リスク解析戦略研究センター 第7回生物統計ネットワークシンポジウム、
一橋講堂

25. (招待講演)「非認知能力と教育／職業達成・金融行動の関係：先行研究と国内大規模調査から」(2016)

日本学術会議主催学術フォーラム「乳児を科学的に観る：発達保育実践政策学の始動」

日本学術会議講堂

9. 学会発表（78回）

1. 星野崇宏（1999）

「混合正規分布の因子分析への適用」
第 27 回行動計量学会大会、岡山理科大学

2. 繁榎算男・大森拓哉・星野崇宏（1999）

「構造方程式モデルへのベイズ解析」
第 27 回行動計量学会大会、岡山理科大学

3. 星野崇宏（2000）

“A Latent Variable Model for Non-Ignorable Non-response”
第 28 回行動計量学会大会、東京大学

4. 星野崇宏（2000）

「多群因子分析における因子平均の直接的有意性検定」
日本心理学会第 64 回大会、京都国際会議場

5. Kazuo Shigemasu, Takuya Ohmori and Takahiro Hoshino (2000)

“Bayesian Inference for Structural Equation Modeling”
International Conference on Measurement and Multivariate Analysis, Vancouver, Canada

6. 橋本貴充・萩生田伸子・星野崇宏・繁榎算男（2000）

「欠損値を含むデータのモデル平均による予測」
第 28 回行動計量学会大会、東京大学

7. 橋本貴充・萩生田伸子・星野崇宏・繁榎算男（2000）

「欠損値を含む予測問題のモデル平均による改良について：大学入試の妥当性研究
を題材として」
2000 年科研費研究集会・統計科学における予測の可能性と限界に関する研究（基盤研究
(A)(1)）、千葉大学

8. 星野崇宏（2001）

「多次元項目反応理論での相関のある特性値の線形結合に関するテスト情報関数」
第 29 回行動計量学会大会、甲子園大学

9. 小沢哲史・星野崇宏・遠藤利彦（2001）

「養育者の自立促進傾向が 19 ヶ月児の社会的参照に及ぼす影響」

第 13 回日本発達心理学会大会、早稲田大学

10.Susumu Shibui, Takahiro Hoshino, Hiroshi Yamada and Kazuo Shigemasu
(2001)

“Two-dimensional Modeling of the Facial Expressions”
European conference on Visual Perception 2001, Turkey

11.繁樹算男・星野崇宏 (2001)

「ベイズ的アプローチによるプロクラス解」
第 69 回日本統計学会大会、西南学院大学

12.Takahiro Hoshino (2002)

“An Information Function for Linear Combinations of Traits in Item Response Theory”
The 25th International Congress of Applied Psychology, Singapore

13.星野崇宏 (2002)

「構造方程式が測定方程式に影響を及ぼす問題とその解決法」
第 30 回行動計量学会大会、多摩大学

14.星野崇宏 (2002)

「構造方程式が測定方程式に影響を及ぼす問題とその解決法について」
第 44 回日本教育心理学会総会、熊本大学

15.繁樹算男・大森拓哉・星野崇宏 (2002)

「潜在クラスによる選択予測モデル」
第 30 回行動計量学会大会、多摩大学

16.Takahiro Hoshino (2003)

“Propensity score weighted multiple group structural equation models”
The 13th International Meeting of the Psychometric Society, Cagliari, Italy

17.星野崇宏・光永悠彦・繁樹算男・前川眞一 (2003)

「潜在変数得点の推定値を用いた構造方程式の母数の推定について」
第 31 回行動計量学会大会、名城大学

18.星野崇宏・鈴木督久 (2003)

「傾向スコアを用いた Web 調査の無作為抽出への近似」
第 31 回行動計量学会大会、名城大学

19.星野崇宏・繁榊算男（2003）

「傾向スコアによる重み付け尤度最大化による構造方程式モデルでの母数推定法」
第31回行動計量学会大会、名城大学

20.星野崇宏（2003）

「項目反応理論・構造方程式モデルでの段階推定による等化と先行研究結果の利用」
第67回日本心理学会、東京大学

21. 星野崇宏・繁榊算男（2003）

「傾向スコアによる無作為割り当て・無作為抽出の近似と構造方程式モデルへの応用」
2003年科研費研究集会・量子推測理論の数理統計学的基礎とその応用（基盤研究(A)(1)）、大阪大学

22.Kazuo Shigemasu, Satoko Kojima and Takahiro Hoshino (2003)

“Bayesian Hierarchical Analysis of Choice Data”
The 13th International Meeting of the Psychometric Society, Cagliari, Italy

23.鈴木敦命 星野崇宏 繁榊算男（2003）

「項目反応理論にもとづく顔表情認知能力の測定」
第31回行動計量学会大会、名城大学

24.繁榊算男・星野崇宏（2003）

「条件付き共分散行列の構造分析」
第31回行動計量学会大会、名城大学

25.鈴木敦命・星野崇宏・繁榊算男（2003）

基本表情の認知能力間の相関構造
第22回基礎心理学会大会、筑波大学

26.星野崇宏・吉野諒三（2004）

信頼感と価値観の関係—個票データ解析によるソーシャルキャピタルの国際比較—
第32回行動計量学会大会、青山学院大学

27.星野崇宏・繁榊算男（2004）

MCMCを用いたベイズ的な傾向スコア調整法の提案
2004年度統計関連学会連合大会、富士大学

28. 鈴木敦命・星野崇宏・繁榊算男 (2004)

喜び表情感度の独立性に関する多角的検証

第 23 回日本基礎心理学会大会、新潟コンベンションセンター

29. Atsunobu Suzuki., Takahiro Hoshino, and Kazuo Shigemasu. (2004).

Sensitivities to basic facial emotions.

International Society for Research on Emotions 13th Annual Conference,
New York, NY. Abstracts, 40.

30. Makoto Mizuno, Takahiro Hoshino and Shigeyoshi Takemura. (2005)

Assessing the Short-term Effectiveness of TV Advertising via the Propensity Score.

Marketing Science Conference, Emory University, USA

31. 水野 誠・竹村滋芳・星野崇宏 (2005)

TV 広告の購買に対する短期効果の検証—傾向スコアの応用—

第 33 回行動計量学会大会、長岡技術科学大学

32. 磯村健介・星野崇宏・前川眞一・加藤健太郎・渡部 洋 (2005)

階層的線形モデルにおけるレベル 1 パラメータの推定精度について

第 33 回行動計量学会大会、長岡技術科学大学

33. 星野崇宏・吉野諒三 (2005)

ソーシャルキャピタルとしての法意識・規範意識・契約観と信頼感の国際比較

—東アジア価値観国際比較調査データを用いた構造方程式モデリングによる解析—

第 33 回行動計量学会大会、長岡技術科学大学

34. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino, Mitsuru Kawamura, and Kazuo Shigemasu. (2005).

“A source of an improvement in identifying disgusted facial expressions in the elderly. (2005)”.

The 6th Tsukuba International Conference on Memory: Memory and Emotion, Tsukuba,
Japan.

35. 繁榊算男・星野崇宏 (2005)

「行動遺伝データのベイズ解析」

第 69 回日本心理学会大会、慶應義塾大学

36. 岡田謙介・星野崇宏・繁榊算男 (2005)

「Bartlett 補正を用いた因子数決定の新しい方法」

第 69 回日本心理学会大会、慶應義塾大学

37. Kensuke Okada, Takahiro Hoshino, and Kazuo Shigemasu (2005).

“Bartlett Correction of Likelihood Ratio Statistics in Structural Equation Modeling”
The 70th Annual Meeting of the Psychometric Society, Tilburg,
The Netherlands.

38. 岡田謙介・星野崇宏・繁榊算男 (2005)

「確認的因子分析モデルにおける Item Parceling とモデル適合」
第 22 回日本分類学会研究報告会、立教大学

39. 星野崇宏・森本栄一 (2005)

「傾向スコアを用いたインターネット市場調査の偏りの補正と共変量選択について」
第 78 回日本マーケティング・サイエンス学会研究大会、法政大学

40. Atsunobu Suzuki, Takahiro Hoshino, Mitsuru Kawamura, and Kazuo Shigemasu. (2005).

“Measuring age-related changes in facial expression recognition.”
The 11th European Conference on Facial Expression, Durham, UK.

41. 山形伸二・高橋雄介・星野崇宏・繁榊算男 (2005)

「双生児法による遺伝・環境交互作用の検討」
2005 年国立遺伝学研究所研究会「動物行動の遺伝学」

42. 星野崇宏. (2006)

「ディリクレ過程事前分布を用いた構造方程式モデリングへの混合分布の適用とベイズ推定」
第 20 回日本計算機統計学会大会、同志社大学

43. Takahiro Hoshino and Kazuo Shigemasu. (2006)

“Doubly Robust Weighted Estimating Equation for Covariate Adjustment in Structural Equation Modeling”.
The 71st Annual Meeting of the Psychometric Society, Montreal, Canada.

44. Kazuo Shigemasu and Takahiro Hoshino. (2006)

“Bayesian general multivariate behavioral analysis without additive polygenic hypothesis”.
IMPS2006, The 71st Annual Meeting of the Psychometric Society, Montreal, Canada.

45. 星野崇宏 (2006)

「Strong Ignorability の仮定を用いない傾向スコアによる共変量調整法の提案」

2006 年度統計関連学会連合大会、東北大学

46. 星野崇宏 (2006)

「構造方程式モデリングにおいて非正規な誤差変数が存在する場合のベイズ推定」

第 34 回日本行動計量学会大会、聖学院大学

47. 宮崎慧・繁樹算男・星野崇宏 (2006)

「割り当てが無作為でない場合の多群構造方程式モデルと MCEM アルゴリズムを用いた推定法の提案」

第 34 回日本行動計量学会大会、聖学院大学

48. Kei, Miyazaki, Takahiro Hoshino and Kazuo Shigemasu. (2007)

“An estimation method for causal effect on latent variables under nonrandom assignment”.
IMPS2007, The 72nd Annual Meeting of the Psychometric Society, Tokyo, Japan.

49. 宮崎慧・繁樹算男・星野崇宏 (2007)

「項目反応理論における、テスト形式の割り当てが無作為でない場合の同時推定等化法の提案」

第 35 回日本行動計量学会大会、同志社大学

50. 宮崎慧・繁樹算男・星野崇宏 (2007)

「ディリクレ過程混合モデルを仮定したセミパラメトリックな項目反応理論モデルとベイズ推定」

2007 年度統計関連学会連合大会、神戸大学

51. 星野崇宏・森本栄一・江村謙太郎 (2007)

「Web サイトへの接触と購買行動の関係—統計的モデリングによるデータ融合の利用—」

第 36 回消費者行動研究学会研究コンファレンス、九州産業大学

52. 星野崇宏・森本栄一・鈴木暁・木戸茂 (2008)

「状態空間時系列モデルの階層ベイズによる拡張と広告効果の推定」

第 84 回日本マーケティング・サイエンス学会研究大会、電通ホール

53. 星野崇宏 (2009)

「社会調査における選択バイアスと感度分析—国民性調査データへの適用—」

第 37 回日本行動計量学会大会、大分大学

54. 星野崇宏 (2009)

「学力調査間の等化・リンキングの条件—欠測データモデルによる理解—」

第7回日本テスト学会大会、名古屋大学

55. 猪狩良介・星野崇宏 (2009)

「非集計 Web アクセスデータを用いたサイト普及モデル
-多時点複数サイトの階層ベイズモデリング-

第86回日本マーケティング・サイエンス学会研究大会、電通ホール

56. 星野崇宏 (2009)

「補償型購買意思決定と非補償型購買意思決定：誰がいつどこで？」

第3回行動経済学会大会、名古屋大学.

57. 猪狩良介・星野崇宏 (2010)

「サイト属性と訪問経路情報を用いた Web 閲覧行動モデル」

第88回日本マーケティング・サイエンス学会研究大会、電通ホール

58. 宮崎慧・星野崇宏 (2010)

「複数商品購買行動のための階層ベイズグレングレンジャー因果性分析」

第88回日本マーケティング・サイエンス学会研究大会、電通ホール

59. 宮崎慧・星野崇宏(2011)

「動的階層ベイズモデルを用いた複数商品カテゴリー購買とブランド購買の同時分析」統計関連学
会連合大会 2011 年大会、九州大学

60. 太田悠大・星野崇宏 (2011)

「プロスペクト理論を考慮した同時購買行動での価格プロモーション戦略」

第90回日本マーケティング・サイエンス学会研究大会、電通ホール

61. Kei, Miyazaki and Takahiro Hoshino. (2011)

“Hierarchical Bayes Granger Causality Analysis for Understanding Purchase Behaviors” The
76th Annual and the 17th International Meetings of the Psychometric Society, Hong-Kong
Institute of Education, Hong-Kong.

62. Takahiro Hoshino. (2012)

“Causal Inference for Multilevel Modeling Under Nonrandom Allocation to Level-2 Units:
Moderated causal effect as a function of macro-level variables”.

IMPS2012, The 77nd Annual and the 18th International Meetings of the Psychometric Society,
Lincoln, NE. USA.

63. 宮崎慧・星野崇宏(2012)

「ブランド非購買に対する家庭内在庫変数およびブランドスイッチングの効果の分離と推定」
統計関連学会連合大会 2012 年大会、北海道大学

64. 星野崇宏(2012)

「ポイントプログラムの長期効果：目標勾配仮説は成立するのか」
第 6 回行動経済学会大会、青山学院大学.

65. 飯塚久哲・星野崇宏・鈴木重央・大黒未鈴(2013)

「データ融合を用いたシェア・オブ・ウォレットの推定」
第 47 回消費者行動研究コンファレンス、法政大学

66. 竹内真登・星野崇宏(2013)

「解釈レベルの操作を伴うマーケティングリサーチ手法の開発とバイアスの排除に関する実証実験」 第 47 回消費者行動研究コンファレンス、法政大学

67. 宮崎慧・星野崇宏(2013)

「商品カテゴリー購買と複数ブランド購買の段階型同時分析モデルの提案」
第 94 回マーケティング・サイエンス学会、電通ホール

68. 星野崇宏(2014)

「多次元項目反応理論における関心下の次元のみの特性値推定とテスト情報関数の構成について」
第 12 回日本テスト学会大会、帝京大学

69. 竹内真登・星野崇宏(2014)

「行動経済指標による金融行動の個人差の理解 —金融・リスク資産投資における時間割引率と危険回避度の影響—」 行動経済学会第 8 回大会、慶應義塾大学

70. 加藤諒・星野崇宏(2014)

「消費者の慣習形成を考慮したブランド選択モデルの構造推定」
行動経済学会第 8 回大会、慶應義塾大学

71. 星野崇宏・中川宏道(2015)

「店舗レベルにおけるポイント販促弾力性と価格弾力性の決定要因—食品スーパーのチェーン全店データによる商圈分析—」
第 65 回 日本商業学会全国研究大会、香川大学

72. 星野崇宏(2015)

星野崇宏：研究教育業績リスト

「購買行動データを用いた選択時における・脈効果の定量的把握とモデリング」
第97回マーケティング・サイエンス学会、大阪府立大学

73. 竹内真登・星野崇宏(2015)

「解釈レベル操作を伴う文脈効果状況下での商品選択行動の検討」
第51回消費者行動研究コンファレンス、小樽商科大学

74. 竹内真登・星野崇宏(2015)

「解釈レベル理論と消費者の選好変化 -二重過程・文脈効果との関連とマーケティングリサーチへの応用-」
行動経済学会第9回大会、近畿大学

75. 猪狩良介・星野崇宏(2015)

「Online/Offline 購買における消費者の新製品学習行動モデル：チャンネル間比較と関係性の把握」
第51回消費者行動研究コンファレンス、小樽商科大学

76. 加藤諒・星野崇宏(2015)

「参照価格とforward-looking を考慮した消費者の選択行動の構造推定」
日本マーケティング・サイエンス学会第98回研究大会、電通ホール

77. 加藤諒・星野崇宏・堀江尚之(2015)

「段階推定法を利用した潜在クラスの時系列的把握」
日本オペレーションズ・リサーチ学会「数理的発想とその実践」第1回研究集会、金沢学院大学

78. 岡田謙介・星野崇宏 (2016)

「実験条件を増やすと効果量は小さくなる：「効果量ハッキング」の危険性とその対処法について」
第58回日本教育心理学会総会 サポートホール高松・かがわ国際会議場

79. 残間 大地・中野 暁・星野 崇宏 (2016)

「メディア接触のログデータと意識データのギャップに関する考察」
第44回日本行動計量学会大会 札幌学院大学

80. 猪狩 良介・星野 崇宏 (2016)

「オンラインとオフラインの購買行動推移はいかに起こるか？大規模リテールデータから」
第44回日本行動計量学会大会 札幌学院大学

81. 加藤 諒・星野 崇宏 (2016)

「広告接触の因果効果・調整効果のブランド属性と個人属性の影響を探る：マルチレベルデータの因果効果推定」
第44回日本行動計量学会大会 札幌学院大学

外部資金の獲得状況

1. 科学研究費及び競争的研究助成金

(1) 代表者として

- ・平成 26 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）
課題番号 262-85151 平成 26 年度～29 年度
「非実験研究での介入効果推定法の総合的研究と実用化」
(単独) 1450 万円 (予定)
- ・厚生労働科学研究費補助金 指定型研究
「厚生労働省縦断調査における因果効果推定と脱落による影響に関する研究」
平成 26 年度～27 年度
(代表者) 648 万円
- ・科学技術振興機構
戦略的創造研究推進事業 個人型研究 さきがけ 「知の創生と情報社会」領域
平成 20 年度～平成 23 年度
「マルチソースデータ高度利用のための統計的データ融合」
(単独) 5259 万円
- ・平成 23 年度科学研究費補助金（若手研究 (A)）
課題番号 236-80026 平成 23 年度～25 年度
「ソーシャルメディア発信情報のバイアス補正法の研究」
(単独) 1326 万円
- ・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
平成 19 年度産業技術研究助成事業 平成 19 年度～平成 21 年度
「共変量情報の高度利用によるネットリサーチのバイアス除去法の開発と
マーケティング製品開発への利用」
(単独) 1131 万円
事後評価「A：極めて優れている（A～Dの4段階、Aは上位1割程度）」
- ・経済産業省「低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」
財団法人名古屋産業科学研究所受託分 平成 21 年度
畜産バイオマス地域内循環システム 環境ブランド化検討グループ受託研究費
(グループリーダー) 734 万円(内名古屋大学受託分 436 万円を予定)

星野崇宏：研究教育業績リスト

- ・財団法人 全国銀行学術研究振興財団 2016 年度研究助成
「行動経済指標とパーソナリティ特性を用いた個人の金融行動とその変化の理解」
(代表) 90 万円
- ・財団法人 損害保険事業総合研究所 2014-2015 年度研究助成
「保険会社の経営問題について：行動経済学的な考察」
(単独) 100 万円
- ・財団法人 野村財団 2013 年度下期社会科学研究所助成
「行動経済学とセミパラメトリックな構造推定手法を融合した消費者行動モデルの構築と評価」
(単独) 40 万円
- ・財団法人 日東学術振興財団 平成 25 年度若手海外派遣助成
「ポイントプログラムの長期的な購買促進効果とその投資効果に関する研究」
(単独) 30 万円
- ・財団法人 厚生労働統計協会 平成 25 年度調査研究受託事業
「縦断調査における因果効果推定と脱落による推定への影響に関する研究」
(単独) 194 万円
- ・財団法人 日東学術振興財団 平成 23 年度若手研究助成
「新製品開発支援のための適応型コンジョイント測定方法の開発」
(単独) 50 万円
- ・平成 18 年度科学研究費補助金 (若手研究 (B))
課題番号 187-30406 平成 18 年度～19 年度
「準実験と調査観察研究における因果効果の推定と教育評価への応用」
(単独) 360 万円
- ・平成 16 年度海外特別研究員研究費
課題番号 747 平成 16 年度～17 年度
(単独) 1080 万円 (一身上の都合により辞退)
- ・平成 13 年度特別研究員奨励研究費
課題番号 06040 平成 13 年度～15 年度
(単独) 300 万円
- ・財団法人 社会安全研究財団 平成 16 年度若手研究助成

「少年非行と養育態度の関係の理解と効果的介入法のための統計解析」

(単独) 95 万円

・財団法人 大川情報通信基金 2004 年度研究助成

「インターネット調査の従来型調査への補正法の可能性と限界」

(単独) 100 万円

・財団法人 吉田秀雄記念事業財団 2005 年度研究助成

「共変量情報を用いた偏りのある標本抽出調査の補正の可能性の検討」

(単独) 300 万円

・財団法人 カシオ科学振興財団 平成 17 年度研究助成

「高等学校における理系進学離れをくい止めるための介入プログラムの効果の評価手法の開発」

(単独) 100 万円

・財団法人 稲盛財団 平成 18 年度研究助成

「実験が行えない状況での因果効果の推定法の開発と教育プログラム評価への応用」

(単独) 100 万円

・財団法人 テレコム先端技術研究支援センター 平成 18 年度 SCAT 研究助成

「人工知能的手法による Web 調査データと既存型調査データのデータフュージョン」

(単独) 300 万円

(2) 研究分担者として

・平成 28 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (A))

課題番号 16H02056

心理職の活動を広げるインターネット版認知行動療法の開発とプログラム評価

(代表者：下山晴彦)

・平成 28 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B))

課題番号 16H05589

妊婦のアドヒアランスを促進する冷え症改善支援モデルの開発

(代表者：中村幸代)

・平成 26 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B))

課題番号 262-85153

星野崇宏：研究教育業績リスト

大学入試を考える

(代表者：繁榎算男)

・平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

課題番号 233-00310

大学入試のためのスタンダードの作成

(代表者：繁榎算男)

・平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）

脳機能に基づく言語習得メカニズムの解明：学童期の横断的研究

(代表者：萩原裕子)

・平成 16 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）

課題番号 142-52013

東アジア価値観国際比較調査－信頼感の統計科学的解析－

(代表者：吉野諒三)

・平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

課題番号 163-30114

混合モード調査における加重集計法の実用化

(代表者：前田忠彦)

・平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

課題番号 183-20078

災害時の外国人のための「やさしい日本語」と社会的ニーズへの言語学的手法の適用

(代表者：佐藤和之)

・平成 19 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

課題番号 193-30145

潜在変数モデルの統合と実際的問題の解決

(代表者：繁榎算男)

2. 企業からの奨学寄附金

*以下金額は公表せず

(1) 代表者として

- ・(株) 日経リサーチ 2003 年度
傾向スコアを用いた Web 調査の偏りの調整法の開発
(単独)
- ・(株) ビデオリサーチ 2004 年度
異なるモードの調査間の補正について
(単独)
- ・(株) ビデオリサーチ 2005 年度
傾向スコアを用いたインターネット調査データの補正
(単独)
- ・(株) ビデオリサーチ 2006 年度
傾向スコアを用いたインターネット調査データの補正(継続)
(単独)
- ・(株) ビデオリサーチ 2008 年度
傾向スコアを用いたインターネット調査データの補正及びデータフュージョン法の開発(継続)
(単独)
- ・(株) 電通リサーチ 2005 年度
共変量情報を用いた郵送調査とインターネット調査間の比較調整法の開発
(単独)

(2) 研究分担者として

- ・(株) 電通 2005 年度
消費者調査データの階層ベイズによる分析研究
(代表者：繁榊算男)
- ・(株) ビデオリサーチ 2004 年度
マーケットセグメンテーションによる消費者購買行動の予測
(代表者：繁榊算男)
- ・(株) 日産自動車 2006-2007 年度
自動車の快適性次元の探索と生理指標の関連
(代表者：佐藤隆夫)

